

論文要旨

【背景・目的】研究者は、看護師が患者に効果的な看護を考える中で独自のケア方法を発想、工夫すること、そしてそれを組織的に活用することの重要性を感じてきた。しかし同時に、こうした看護師の発想が様々な抵抗により看護チームに普及しない現状にも直面してきた。そこで本研究の目的を、個人が見出した看護チームにとって新しい看護ケアが、看護チーム内で普及する過程と普及に影響する要因を記述し、個人のもつ知識や発想を組織に活かす為に有用な看護管理方法を検討することとした。

【方法】4つの看護チームの事例を基に、看護チームにとって新しい看護ケア方法が発案者から看護チームに普及する過程と、普及の影響要因を記述した。各チームにおける看護管理者、ケア発案者、それ以外のスタッフという立場の異なる看護師、計11名にそれぞれ面接調査を実施した。個別事例の分析を行った後、その結果をもとに全事例の分析を行い、看護チームにとって新しい看護ケアが発案者から看護チームに普及する過程と、普及の影響要因を記述した。

【結果】看護チームにとって新しい看護ケアとは「NICUにおける院内外泊」や「透析お誕生日カード」等であった。新しい看護ケアが看護チーム内に普及する過程は、新しい看護ケアを、発案者やケア推進者など限定された者が実施する段階、一部のチームメンバーが実施する段階、多くのチームメンバーが実施する段階、チームメンバー全員が実施する段階、の4段階から成り、ケアの主たる目的が一貫して継続されつつ対象者やケア目的が新たに加わり、実施頻度が増加または一定して継続される特性を持っていた。また、新しい看護ケアが発案され実施に至るまでの普及の前段階があった。ケア対象者が「ケアに肯定的な反応を見せる」こと、ケア推進者が「患者中心の看護への信念を持ち」、「スタッフをケアの実施に巻き込む」こと、そして管理職が「推進者を支え」、「ケア推進のためのチーム運営をする」等を含む29の普及の促進要因があった。ケア推進者以外のスタッフが「ケアへの理解を深める」ことや、チーム内の「柔軟で協働的な人間関係」等も普及の促進要因であった。さらに普及の促進を妨げる要因は、ケア対象者が「ケアに否定的反応を示す」ことや、ケア推進者が「ケア推進に関われない」、推進者以外のスタッフが「ケア実施に主体的に関わらない」、チーム全体の状況として「革新性が低く閉鎖的な雰囲気」であること等を含む9つが見出された。

【考察】ケア推進者がスタッフの理解と主体的な関与を重視するリーダーシップを発揮し、同時に管理職がケア推進者をエンパワーメントすることで、新しい看護ケアの普及が成功したと考えられる。個人のもつ知識や発想を組織に活かす為に有用な看護管理方法として、患者のニーズを看護ケアに反映させること、臨床現場におけるスタッフのリーダーシップ開発、管理職を含めたチームメンバー間の率直なコミュニケーションや心理的に安全な場の構築などを通し、革新的風土を醸成することが検討された。